

原子力機構施設利用共同研究
利用者各位

東京大学大学院工学系研究科
原子力専攻共同利用管理本部（大学開放研究室）

海外の研究炉利用のサポートについて

平素より、原子力機構施設利用共同研究の業務運営におきましては、多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて平成 30 年 1 月 24 日に JRR-3 の再稼働予定が平成 32 年 10 月末に延期されたことが公表されました。これを受けまして、一般共同研究専門委員会では、研究活動停滞の懸念から、海外の研究炉利用に関して以下の支援（以下、支援プログラムと呼びます）が検討されました。つきましては、改めて下記の通り原子力機構施設利用共同研究課題募集を行います。既に平成 30 年度課題募集に応募された方も、お手数ですが、下記を考慮した上で、研究計画を再検討の上、再度ご応募頂きたく存じます。再度審査を行う予定です。

支援の対象

1. JRR-3 で実施を想定している中性子ビーム利用（PGA、NRG、RESA など）の研究を海外炉で実施するための渡航費用の一部支援。
2. JRR-3 で実施を想定している炉内照射による中性子放射化分析の研究に対して、海外炉を使って実施する分析依頼費用の一部支援。

渡航費支援の条件

1. 原子力機構施設利用共同研究課題として採択されること。
2. 加えて、海外炉の共同利用制度に、同一（あるいは類似）課題で各研究者が申請し、採択されること。
3. 支援の詳細については未定ですが、旅費については、一課題あたり 2 名まで、支援金額は別途審査の上、最大でも一人あたり 35 万円を目安と考えています。

放射化分析依頼費用支援の条件

1. 原子力機構施設利用共同研究に採択されること。
2. 支援の詳細については未定ですが、分析依頼費用の一部を支援予定です。

募集方法

1. 原子力機構施設利用共同研究に申請する。締め切りは 3 月 19 日です。
2. 渡航費支援の場合、各自で海外炉の共同利用制度に申請する。
(例えば、ANSTO の締め切りは 3 月 15 日(木)ですので、この場合、両方の審査が同時に進んでいくこととなります。ANSTO の募集詳細については、<http://neutron.ansto.gov.au> を参照ください。)

注記事項

1. 原子力機構施設利用共同利用に採択された場合、改めて支援プログラムに応募して頂きます。課題採択者には、後日、同プログラムの応募要領をお送りします。支援額については、応募書類及び予算などを考慮して決定します。支援できない場合もある事をご了解ください。なお、応募開始は3月末頃の予定です。
2. 繰り返しになりますが、支援プログラムに応募いただける前提条件として、原子力機構施設利用共同利用に採択されることが必要です。今回の公募は、そのための原子力機構施設利用共同利用に対するご案内です。
3. 支援プログラムを利用いただいた研究課題については、支援プログラム実施報告の他、他の共同利用研究と同様に、年度末に研究成果報告書及び論文リストを提出いただく予定です。
4. 本支援プログラムは、東京大学物性研附属中性子科学（中性子散乱実験）の海外実験支援プログラムと同様のものと考えております。参考として、以下の情報をご覧ください。
http://neutrons.issp.u-tokyo.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=112
5. 海外に出かけて行う実験での原子炉における照射料は支援できないので注意してください。なお、一般的に、研究目的の共同利用の枠組みでは、照射料が発生しないことが多いようです。
6. 放射化分析の依頼分析に関しては、ANSTOは東京に事務所があるので、比較的容易に依頼を相談する事ができます。ANSTO以外の海外炉でも同様のサービスを行っている場合は、対応できる可能性があります。
7. 海外炉において、実験をするための手続きや、放射化分析依頼を行う手続きは各自でアレンジして下さい。開放研はこの点について一切の支援をいたしません。
8. 実験に係る物品を輸出する際には、外為法の輸出規制をお調べ下さい。

以上